

MARK'S

Global Charity Action

- 今、手帳にできること -

2011年3月11日 14時46分

たまたま全社員が集まる年に2回の全体会議の日。かつてない激震に全員で本社を逃れ、近くの大学構内へと緊急避難した。その上を大型旅客機が低空でかすめ、東京湾の方角からは黒煙が立ち上る。緊急持ち出しラヂオが報じる東日本・太平洋岸を相次いで襲う巨大津波、その被害の惨状。ただ事ではない。。。。。

日本がうろたえた、あの日から2ヶ月以上が経過しました。そして今、被災地は復旧・復興に向けて着実に動き出しています。

この間、私たちも私たちにできることは何かを探し続けてきました。そして生まれたのが“マークス・グローバル・チャリティ・アクション”という私たちなりの復興支援への取り組みです。

私たちが手帳を初めて世に送り出したのは1999年のこと。以来12年の間に手帳は私たちの基幹商品となり、今や世界30カ国以上で140万人ものお客様に愛されるまで成長を遂げることができました。私たちの手帳を愛してくれたお客様が、私たちを育ててくれたのです。だからこそ、手帳を通じてご恩返しをしたい。そんな思いから私たちの復興支援への取り組みは生まれました。

私たちの手帳を世界各地でお客様がお買い上げいただくごとに一冊5円を私たちが寄附する。さらに、このマークス・グローバル・チャリティー・アクションの趣旨にご賛同いただいた販売店様が一冊5円の寄附を加えていただく。こうすることで、私たちの手帳を世界各地でお客様が一冊お買い上げするごとに10円の寄付金が生まれる仕組みです。

2011年の6月1日からこの取り組みはスタートします。2012年3月11日までの間、お客様の手帳のお買い上げごとに世界各地で寄附金が生み出され、東日本の被災地復興に寄与することができるのです。

12年前、初めて私たちが手帳を世に送り出した時、私たちが手帳に託した思いとは“手帳は人生をデザインするための道具でありパートナーである”、というものでした。自分の一日を、一週を、一月を、そして一年をどのように設計していくのか……。手帳の果たすべき役割は、そんな時に自身の想いを記し、アイデアや計画などを設計し、まとめ上げる作業を支援してくれる機能だと思います。

東日本大震災。

あの惨劇を機に、それまでに培ってきた価値観や概念、観念までもが根底から覆されてしまった。そんな方たちも少なくはないはずです。手帳が新しい生き方を描き、新たな決意や想いを記す道具となり、パートナーとなってくれたら、というのが私たちの願いです。

今、手帳にできること、手帳だからできること、そして、手帳にしかできないことがきつとあるはずだ、と私たちは信じています。

これまで手帳をご利用いただくことで私たちが育ててくれた被災地の方たちへのご恩返し、そして被災地の復興への想いを形にしたい方たちにできる私たちのお手助けが、この“マークス・グローバル・チャリティー・アクション”です。

私たちは、手帳にできることを追求していきます。世界中で私たちの手帳をご愛用していただいている140万人のお客様とともに。

2011年5月31日

株式会社マークス
代表取締役 高城和彦